飼育下におけるシラウオの餌について

田久和剛史（環境修復・地域貢献プロジェクト）

シラウオ *Salangichthys microdon* は，宍道湖を代表する魚の一つであるが，鱗はオスにわずかにあるだけであり，傷に弱いといったことなどから，一般的に飼育は難しいといわれる．また，寿命はおよそ 1 年と短い．島根県立宍道湖自然館ゴビウスでは，安定して展示できるよう，2001 年の開館以来，飼育下での繁殖に取り組み，2017 年には全国の水族館で初めての周年展示を実現し，現在も継続している．2024 年からは，同館を管理運営するホシザキグリーン財団の事業の一つとして，大量飼養が可能なレベルを目指して，さらなる飼育技術の開発を試みている．

生物を飼育する上で，餌料は重要である．飼育下で本種の摂餌行動を観察すると，水中を漂う餌をよく見て，狙い，飛びつくように食べる．また，底に沈んだ餌を食べる様子は見られない．これらの特徴をふまえつつ，生きた餌料をはじめとする複数の餌を，成長段階に応じて組み合わせて与えている．

これまでは，養殖現場において一般的に使用されているシオミズツボワムシやふ化させたアルテミア幼生などを与えてきた．これらの餌料はよく食べる一方で，餌の準備にかかる労力や経費が発生するため，多数を生産する場合には，給餌期間など改良していく必要がある．

今回は，飼育下のシラウオに与えている餌の紹介や簡易的に行った給餌テストの結果を報告し，餌料の課題や展望について発表する．

飼育下のシラウオ（消化管には，食べた餌が見える）